

船舶事故調査報告書

平成27年7月16日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成27年4月1日 07時48分ごろ
発生場所	北海道苫小牧市苫小牧港西港区の西防波堤先端 苫小牧港東外防波堤灯台から真方位356° 705m付近 （概位 北緯42° 37.28′ 東経141° 37.21′）
事故調査の経過	平成27年4月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第18長 ^{ちようほう} 宝丸、4.14トン HK3-87937（漁船登録番号）、個人所有 9.43m (Lr) × 2.35m × 0.84m、FRP ディーゼル機関、139.75kW、昭和56年5月14日 第200-12883号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 37歳 一級小型船舶操縦士 免許登録日 平成21年11月26日 免許証交付日 平成26年10月9日 （平成31年11月25日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	本船 左舷船首及び船首船底外板に破口等 防波堤 なし
事故の経過	本船は、船長及び甲板員が乗り組み、平成27年4月1日07時00分ごろ、苫小牧港西港区港口の西方沖6.5海里（M）付近でほっき貝桁網漁を終え、同港へ向けて針路真方位約075°、対地速力約8ノット（kn）で航行した。 船長は、07時25分ごろ、甲板員から操船を引き継いで操舵室右舷側に立って目視で見張りをを行い、自動操舵で苫小牧港西港区の西防波堤（以下「本件防波堤」という。）先端及び東外防波堤先端との間の港口中央へ向けて航行を続けた。 船長は、1.5Mレンジとしていたレーダー及び目視で本件防波堤先端までの距離が約0.5Mとなったことを認め、ふだんどおり、本件防波堤先端から約40mの距離を保ちながら左転し、苫小牧港西港

	<p>区の漁港区（以下「本件漁港」という。）に入航することとし、自動操舵装置のコースダイヤル（以下「本件ダイヤル」という。）を操作して針路を徐々に本件防波堤先端付近に向けた。</p> <p>船長は、ふだん、入航時は手動操舵に切り替えて舵輪で操船していたが、自動操舵状態で入航してみようと思い、本件ダイヤルを左に回したものの、舵効が少ないことを感じ、さらに本件ダイヤルを左に回したところ、左転して本件防波堤に向かう態勢となったことに気付いた。</p> <p>本船は、船長が慌てて本件ダイヤルを右に回したが間に合わず、07時48分ごろ、左舷船首が本件防波堤先端に衝突した。</p> <p>船長は、本船の損傷状況を確認した後、自力で本件漁港に戻り、所属する漁業協同組合に報告して海上保安庁への通報を依頼した。</p> <p>（付図1 事故発生経過概略図 参照）</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>
その他の事項	<p>船長は、平成26年12月に甲板員から船長職を引き継ぎ、自身の操船で本件漁港に入航した経験が約20～30回あった。</p> <p>船長は、本事故時、左転して本件防波堤に向かう態勢となったので気が動転し、手動操舵に切り替えたり、減速したりするなど、衝突を回避する動作をとることができなかった。</p> <p>本船は、自動操舵装置等の航海計器及び機関に不具合又は故障はなかった。</p> <p>甲板員は、本事故時、船首甲板で下を向いて桁網の小石除去作業に当たっていた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、苫小牧港西港区の本件漁港へ向けて自動操舵で東進中、船長が、自動操舵状態で入航してみようと思い、本件ダイヤルを左に回したところ、思うような舵効を得られなかったため更に左に回したことから、左転して本件防波堤に向けて航行し、本件防波堤先端に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、自動操舵状態で入航操船したことがなかったことから、自動操舵状態で入航してみようと思ったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、苫小牧港西港区において、本件漁港へ向けて自動操舵で東進中、船長が、自動操舵状態で入航してみようと思い、本件ダイヤルを左に回したところ、思うような舵効を得られなかったため更に左に回したため、左転して本件防波堤に向けて航行し、本件防波堤先端に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>

参考

今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

- ・ 入航時は、手動操舵で操船を行い、十分に減速して周囲の安全を確認すること。

付図1 事故発生経過概略図

